

COMPANY RESEARCH AND ANALYSIS REPORT

|| 企業調査レポート ||

藤商事

6257 東証 JASDAQ

[企業情報はこちら >>>](#)

2017年6月14日(水)

執筆：客員アナリスト

佐藤 譲

FISCO Ltd. Analyst **Yuzuru Sato**



FISCO Ltd.

<http://www.fisco.co.jp>

目次

■ 要約	01
1. 販売台数の減少が続き 2017年3月期は2期連続の減収減益	01
2. 2018年3月期は大幅増収増益見通し	01
3. 開発から販売に至るまで「変わる挑戦」に取り組む	01
4. スマートフォン向けゲームアプリも本格展開	02
■ 会社概要	03
1. 会社沿革	03
2. 事業の特徴	03
3. 業界動向と市場シェア	04
■ 業績動向	06
1. 2017年3月期の業績概要	06
2. 財務状況と経営指標	08
■ 今後の見通し	09
1. 2018年3月期の業績見通し	09
2. 2018年3月期の取り組み施策について	11
■ 株主還元策	13

■ 要約

2018年3月期は有力シリーズ機種を複数投入し、大幅増収増益を見込む

藤商事 <6257> は、JASDAQ 上場のパチンコ・パチスロ機の中堅メーカーで、「ホラー」系ジャンルの開発に特色がある。また、無借金経営で財務状況は良好となっている。

1. 販売台数の減少が続き 2017年3月期は2期連続の減収減益

2017年3月期の業績は売上高で前期比 13.7% 減の 32,953 百万円、営業損失で 2,271 百万円（前期は 2,035 百万円の利益）と 2 期連続で減収減益となった。業界の自主規制導入の取組みによって、遊技機器市場全体が冷え込むなかで、パチンコ機については前期比 5.9% 増の 32,467 百万円と堅調に推移したが、パチスロ機が同 93.5% 減の 485 百万円と大きく落ち込んだことが主因だ。経営環境が厳しくなるなかで、遊技機器ホールにおける導入機種が、特定の人気機種に集中したことや、こうした流れを受けパチスロ機の投入機種を前期の 2 機種から当期は 1 機種にとどめたことも影響した。

2. 2018年3月期は大幅増収増益見通し

2018年3月期は売上高で前期比 51.7% 増の 50,000 百万円、営業利益で 2,500 百万円と大幅増収増益を見込む。パチンコ・パチスロ機ともに今期は同社が得意とする有力ホラータイトルを上期に投入するほか、下期には新規タイトルとして新たな柱となりうるキラータイトルを投入する予定で、販売台数で前期比 33% 増の 13 万台を計画している。特に、今期は射幸性抑制に向けた遊技機規則の改正が進む可能性もあることから、期前半に新機種の多くを投入し、市場環境に応じて下期に追加機種を投入するかどうかを決定する戦略となっている。

3. 開発から販売に至るまで「変わる挑戦」に取り組む

同社では 2 期連続で減収減益となったことから、新機種の開発から販売に至るまでのプロセスを抜本的に見直し、販売シェアの拡大を目指していくほか、利益体質の強化に向けた取り組みも継続し、業績を拡大していく方針だ。機種開発については、経営企画室主導で従来よりも戦略的な開発を進め、確実に台数が見込めるメイン機種を複数育てていく。利益体質の強化としては、今期より新たに投入するパチスロ機から筐体を脱着式に切り替えるほか、パチンコ機でも新本体枠の採用のほか、サイドユニットも機種ごとに交換できるようにする。ホール側では低価格で新機種への入れ替えが可能となるメリットがある。2018年3月期については新本体枠の採用により一時的に部材費が上昇し、売上総利益率の低下要因となるが、2019年3月期以降は部材費の低減が進むことになり、利益率も上昇するものと予想される。

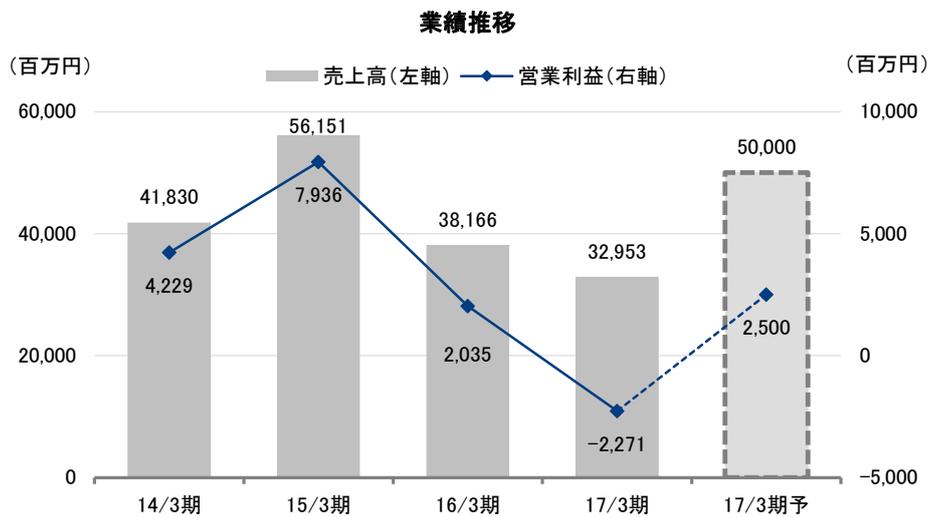
要約

4. スマートフォン向けゲームアプリも本格展開

同社はスマートフォン向けゲームアプリの開発にも注力している。2017年3月期はRPGと麻雀ゲームの2タイトルを試験的にリリースしたが、2018年3月期は本格的に開発費、広告宣伝費をかけて展開していく計画となっている。2017年9月に開催される東京ゲームショウに出展する予定となっており、ゲーム内容やリリース時期については準備が整い次第、公表する予定となっている。

Key Points

- ・ ホラー系やキャラクター版権を利用した機種開発に定評
- ・ 2018年3月期は有力シリーズ機種の投入効果により、業績急回復へ
- ・ 「変わる挑戦」をテーマに社内変革を推進する



出所：決算短信よりフィスコ作成

■ 会社概要

ホラー系やキャラクター版権を利用した機種開発に定評

1. 会社沿革

同社は1958年に、じゃん球遊技機※の製造及びリース販売を目的に創業、業務発展に伴い1966年に株式会社化された。1973年にアレンジボール遊技機市場に参入したのに続き、1989年にパチンコ遊技機、2003年にパチスロ遊技機市場に参入するなど、事業領域を拡大してきた。1992年に開発したアレンジボール「アレジン」が大ヒットしたことで、ブランド力も一気に高まった。

※ 麻雀牌に見立てた入賞口に球を入れることで当たり役を作り、得点に応じてメダルが払い戻される遊技機。

2007年にJASDAQ市場に株式を上場。2013年に従来から取引関係のあったサン電子<6736>と資本業務提携契約を締結、94万株の株式を保有（出資比率4.2%）している。サン電子からは制御基板等の部材を調達し、原材料費に占める比率は2割程度の水準で推移しており、同社の主要調達先の1社となっている。

会社沿革

年月	主な沿革
1958年	藤商事創業、じゃん球遊技機の製造開始、業界初リースにて販売開始
1966年10月	業務発展に伴い法人に改め、(株)藤商事を設立
1973年10月	アレンジボール遊技機の製造販売を開始
1989年1月	パチンコ遊技機の製造販売を開始
2003年9月	パチスロ遊技機の製造販売を開始
2007年2月	JASDAQ市場に株式を上場
2013年3月	サン電子(株)と資本業務提携契約を締結

出所：ホームページよりフィスコ作成

2. 事業の特徴

同社の特徴は、比較的新しい遊技の仕組みを発案して新機種を開発し販売していること、及び漫画等のキャラクター版権を利用した機種の開発に積極的に取り組んでいることなどが挙げられる。新しい仕組みでは、今では一般的となったパチンコ機のチャンスボタンによる演出方法を同社が業界で初めて導入している。また、キャラクター版権を利用した遊技機の開発では、2000年に発売した「CR サンダーバード」、2007年に発売した「CR 宇宙戦艦ヤマト」などが大ヒットした。

会社概要

ここ数年では「ホラー」系の機種で一定のブランド力を獲得している。2007年に開発した「CRリング」は、発売当初「ホラー」で集客できるかどうか不確かだったこともあり、販売台数が1.5万台にとどまり、ヒットしたとは言えない水準であったが、導入したホールでは女性の固定客ファンが徐々に増加するなど稼働率も高く、徐々に評価を獲得していった。2011年に発売した後継機種「CRリング 呪いの7日間」では増産注文も相次ぎ、シリーズ累計7.0万台を販売する大ヒット機種となっている。現在は「ホラー」系の機種をシリーズ化し、毎年発売するまでになっている。ここ数年はホール側の新機種導入の傾向として、販売実績のあるシリーズ機種の後継機を優先的に導入する傾向が強くなっていることが背景にある。このため、初代機に関しては販売が伸びにくい、稼働が高ければ、後継機種以降の販売が確実に見込めることになる。

一方、パチスロ機では2003年に市場に参入以降、苦戦が続いていたが、2014年に発売した「パチスロ リング 呪いの7日間」が2.1万台を販売するヒット商品となり、パチスロ市場においても一定のシェアを獲得できるまでになってきている。

3. 業界動向と市場シェア

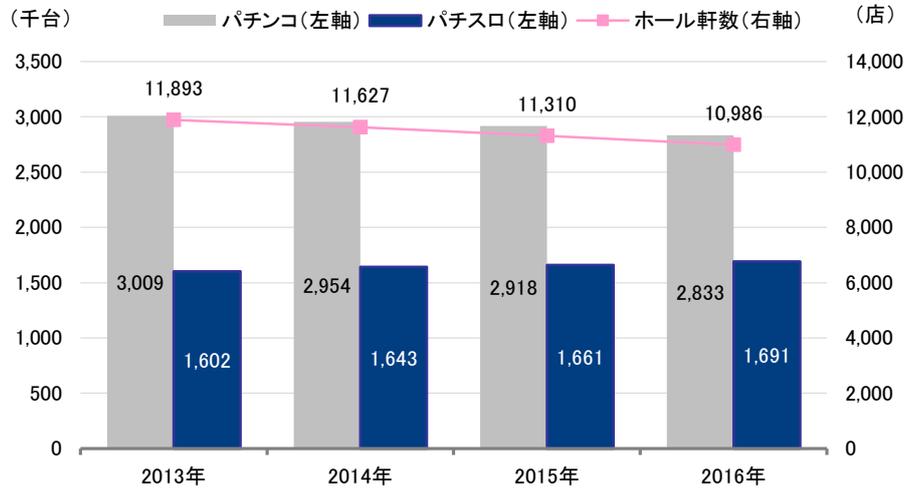
パチンコ・パチスロ遊技機市場は、ここ数年、客数の減少を背景とした経営環境の厳しさが続くなかで、ホール数の減少傾向が続いており、2016年末時点では10,986店舗と前年末比3%の減少となった。経営力のある大手チェーンが店舗数を伸ばす一方で、中小規模のホールの淘汰が進む構造となっている。こうしたなかで、2016年末のパチンコ機の設置台数は283万台と前年末比3%の減少となったが、パチスロ機については169万台と同2%増となり、3年連続で増加している。

業界のトレンドとしては、パチンコ・パチスロ機ともにのめり込み防止のため射幸性を抑える方向で型式試験の基準改正が段階的に実施されており、その影響もあって2017年3月期の業界全体の出荷台数はパチンコ機が前期比15%減の159万台、パチスロ機が同19%減の78万台に落ち込んだと会社では推計している。パチスロ機は設置台数が増加したものの、射幸性の高い旧基準機種からの入れ替えが進んでいないことが、出荷台数の減少につながっている。2018年3月期の見通しについても、業界全体としては減少傾向が続くと見ている。特に、IR推進法案が成立したこともあって、政府でのめり込みや依存症対策の強化に向けた法改正を検討しており、その内容や実施時期によっては、マイナスの影響を及ぼすリスクがある。

同社の業界シェアを見ると、人気機種の販売時期によって変動があるものの、パチンコ機はおおむね5～6%で安定して推移しており、パチスロ機に関しては2015年3月期に「パチスロ リング 呪いの7日間」がヒットし、約3%のシェアを獲得したが、2017年3月期は投入機種が1タイトルにとどまり、また、販売も低迷したことから1%弱のシェアとなった。会社では今後、開発及び販売戦略の見直しを図り、今まで以上に魅力的な機種を開発していくことで、パチンコ、パチスロ機のシェアを着実に拡大していく考えだ。

会社概要

ホール軒数と遊技機設置台数



出所：警視庁発表よりフィスコ作成

業績動向

ホールの導入が他社人気機種に集中し、 2017年3月期業績は苦戦を強いられる

1. 2017年3月期の業績概要

2017年3月期の業績は、売上高が前期比13.7%減の32,953百万円、営業損失が2,271百万円（前期は2,035百万円の利益）、経常損失が2,280百万円（同2,052百万円の利益）、当期純損失が1,944百万円（同1,237百万円の利益）となり、2期連続の減収減益、6期ぶりの損失計上となった。

2017年3月期業績

(単位：百万円)

	16/3期		17/3期				
	実績	対売上比	期初計画	実績	対売上比	前期比	計画比
売上高	38,166	-	50,000	32,953	-	-13.7%	-34.1%
（パチンコ機）	30,652	80.3%	-	32,467	98.5%	5.9%	-
（パチスロ機）	7,514	19.7%	-	485	1.5%	-93.5%	-
売上総利益	18,543	48.6%	26,400	15,583	47.3%	-16.0%	-41.0%
販管費	16,508	43.3%	21,300	17,855	54.2%	8.2%	-16.2%
営業利益又は営業損失	2,035	5.3%	5,000	-2,271	-	-	-
経常利益又は経常損失	2,052	5.4%	5,000	-2,280	-	-	-
特別損益	0	-	-	-227	-	-	-
当期純利益又は当期純損失	1,237	3.2%	3,300	-1,944	-	-	-
販売台数（台）	110,800		150,000	97,800		-13,000	-52,200
（パチンコ機）	92,400		130,000	96,600		4,200	-33,400
（パチスロ機）	18,400		20,000	1,200		-17,200	-18,800

出所：決算説明会資料よりフィスコ作成

17/3期新機種の販売台数

機種	台数	稼働目標
パチンコ		
CR 遠山の金さん 二人の遠山桜	24,500	未達
CR 仄暗い水の底から	20,000	未達
CR ピカレ！まるまるアイランド	2,800	未達
CR 戦国恋姫	6,800	達成
CR 緋弾のエリアII	10,000	達成（更新中）
CR Another（アナザー）	5,400	稼働更新中
CR マジョカ マジヨルナ	2,200	稼働更新中
CR 世界でいちばん強くなりたい！	3,700	稼働更新中
その他	20,800	
パチスロ		
ロリポップチェーンソー	1,100	未達
その他	0	

注：稼働目標とはホールでの台の設置期間で、同社の稼働目標は業界平均よりも高く設定している。
稼働目標に対する各機種の実績は、2017年5月17日時点。

出所：決算説明会資料よりフィスコ作成

藤商事 | 2017年6月14日(水)

6257 東証 JASDAQ

<https://www.fujimarukun.co.jp/corp/ir/>

業績動向

遊技機器市場全体が縮小するなかで、パチンコ機については販売台数で前期比 4.5% 増の 9.6 万台、売上高で同 5.9% 増の 32,467 百万円と 2 期ぶりに増収に転じた。新機種の投入数は前期の 10 機種から 8 機種に減ったものの、上期に投入した時代劇系の「CR 遠山の金さん 二人の遠山桜」(2016 年 6 月)で 2.4 万台、ホラー系の「CR 仄暗い水の底から」(同年 7 月)で 2.0 万台とそれぞれ計画を上回ったことで、低水準だった前期の数字からは上回ったものの、期初計画の 13.0 万台からは大きく下回る格好となった。これは 2016 年末までにホールに設置していた「検定機と性能の異なる可能性のあるパチンコ遊技機」を回収・撤去するという特需が発生したが、対象機種の多数は他メーカーの機種だったため、その後継機種への入れ替えに需要が集中し、同社の新機種投入時期を見直さざるを得なかったこと(第 3 四半期投入予定分を第 4 四半期に先送り)、また、ホール側では第 3 四半期に意図せざる機種の入れ替えを実施したため、第 4 四半期の入れ替え需要が例年よりも鈍く、その影響を同社も受けたことが要因だ。

ホールでの新機種の稼働状況に関しては、投入 8 機種中、「CR 遠山の金さん 二人の遠山桜」「CR 仄暗い水の底から」「CR ピカレ! まるまるアイランド」の 3 機種が未達だったものの、「CR ピカレ! まるまるアイランド」を除けば業界平均以上の稼働状況となった。特に、新規タイトルの「CR 遠山の金さん 二人の遠山桜」はシニア層を中心に安定した稼働となり、パチンコホールからも一定の評価を獲得したことから、後継シリーズの開発が期待される。また、「CR 戦国十恋姫」(2016 年 9 月)については大当たり時に爽快感を得られる「連撃ラウンドシステム」を業界で初めて搭載した戦略機種だが、稼働状況も当初計画を達成し高い評価を獲得した。独自性の高い機種の開発に取り組む同社の強みが発揮された成功事例と言える。

一方、パチスロ機については販売台数で前期比 93.5% 減の 0.1 万台、売上高で同 93.5% 減の 485 百万円となった。新機種の投入数が前期の 2 機種から 1 機種に減少し、また、投入した「パチスロ ロリポップチェーンソー」の販売台数も 0.1 万台と低迷したことが要因だ。期初段階では 2 機種の投入で 2.0 万台の販売を計画していたが、パチンコホールの導入機種が特定の人気機種に集中したことが販売低迷につながり、1 機種については投入そのものを 2018 年 3 月期に先送りすることとなった。

営業利益は売上高の減収に伴う売上総利益の減少(前期比 2,960 百万円減)に加えて、研究開発費の増加(同 1,030 百万円増)を中心に販管費が増加したことで、前期比 4,306 百万円の減益となった。前期比ではパチスロ機の売上減が減益要因の主因となったが、会社計画比ではパチンコ機、パチスロ機ともに減益要因となった。なお、特別損失として投資有価証券評価損 220 百万円を計上している。

無借金経営で手元キャッシュは 200 億円を超える好財務内容

2. 財務状況と経営指標

2017年3月末の総資産は前期末比2,411百万円減少の57,370百万円となった。主な変動要因を見ると、流動資産では現金及び預金・有価証券が4,392百万円、前渡金が716百万円減少した一方で、売上債権が658百万円、たな卸資産が672百万円増加した。また、固定資産では新工場の建設仮勘定を中心に有形固定資産が3,105百万円増加した一方で、投資有価証券が1,997百万円減少した。

負債合計は前期末比1,072百万円増加の10,159百万円となった。主に買掛金が394百万円、未払金が522百万円増加したことによる。また、純資産は前期末比3,483百万円減少の47,210百万円となった。当期純損失1,944百万円の計上及び配当金の支払い1,219百万円により、利益剰余金が3,164百万円減少したことが主因だ。

経営指標を見ると、自己資本比率は利益剰余金の減少に伴い前期末の84.8%から82.3%へやや低下したが、有価証券も含めた手元キャッシュは22,397百万円と豊富で有利足負債も無いことから、財務の健全性は極めて高いと判断される。収益性に関しては、ROA、ROE、売上高営業利益率と全ての項目で2期連続の低下となっている。遊技機器業界全体が逆風下にあり、同社もその影響を受けているのが要因だ。2017年についても業界全体で見ればパチンコ機・パチスロ機の販売台数は減少傾向が続くとの見方が大勢を占めているが、同社は市場シェアも高くないため、顧客に支持される機種を開発していけば、市場全体が縮小するなかにあってもシェア拡大によって収益を伸ばし、収益性を改善していく可能性は十分あると言える。

貸借対照表

(単位：百万円)

	14/3期	15/3期	16/3期	17/3期
流動資産	40,249	49,490	42,635	38,545
(現金及び預金・有価証券)	27,726	34,543	26,789	22,397
(棚卸資産)	2,965	3,863	3,325	3,998
固定資産	13,965	15,203	17,145	18,824
総資産	54,214	64,694	59,781	57,370
(有利子負債)	-	-	-	-
負債合計	7,209	13,596	9,087	10,159
純資産合計	47,004	51,098	50,693	47,210
(安全性)				
流動比率	712.1%	413.3%	550.0%	451.5%
自己資本比率	86.7%	79.0%	84.8%	82.3%
(収益性)				
ROA (総資産経常利益率)	7.8%	13.4%	3.3%	-3.9%
ROE (自己資本利益率)	5.9%	9.8%	2.4%	-4.0%
売上高営業利益率	10.1%	14.1%	5.3%	-6.9%

出所：決算短信よりフィスコ作成

■ 今後の見通し

2018年3月期は有力シリーズ機種への投入効果により、業績急回復へ

1. 2018年3月期の業績見通し

2018年3月期の業績は、売上高が前期比51.7%増の50,000百万円、営業利益が2,500百万円、経常利益が2,500百万円、当期純利益が同1,700百万円と2期ぶりの増収増益に転じる見通し。今期はパチンコ機・パチスロ機ともに販売実績の高い有力ホラータイトルの投入を予定しているほか、そのほかにも複数の有力シリーズ機種への投入を計画していること、また、新規タイトルとして新たな柱となり得るキラータイトルを予定しており、販売台数が大きく回復すると見ている。

2018年3月期業績見通し

(単位：百万円)

	17/3期		18/3期		
	実績	対売上比	会社計画	対売上比	前期比
売上高	32,953	-	50,000	-	51.7%
売上総利益	15,583	47.3%	22,100	44.2%	41.8%
販管費	17,855	54.2%	19,548	39.1%	9.5%
営業利益又は営業損失	-2,271	-	2,500	5.0%	-
経常利益又は経常損失	-2,280	-	2,500	5.0%	-
当期純利益又は当期純損失	-1,944	-	1,700	3.4%	-
販売台数(台)	97,800		130,000		32,200
(パチンコ機)	96,600		105,000		8,400
(パチスロ機)	1,200		25,000		23,800

出所：決算説明会資料よりフィスコ作成

パチンコ機の販売台数は前期比8.7%増の10.5万台を計画している。新機種は5～7機種への投入を予定しており、このうち5機種は確定している。残りについては販売状況を見ながら投入するかどうか決定していく方針だ。既に発売している機種として「CR萌エキサイト」(2017年5月)があるが、メインは7月に投入予定の「CRリング 終焉ノ刻」となる。今年は「CRリング」シリーズの発売開始10周年に当たり、プロモーション活動も従来以上に注力していく予定となっている。新機種では、大当たりまでのサプライズギミック(演出)もかなりインパクトの強いものを用意しているようで、5月中旬にスタートした内覧会での評価も高く手応えは十分のようだ。その他の新機種についてもエアーギミックをさらに進化させたギミックを用意するなど、独創的な機種への投入を予定している。キラータイトルについてはまだ詳細は明らかにされていないが、人気アニメを使った機種となるようで、第4四半期の投入を予定している。

今後の見通し

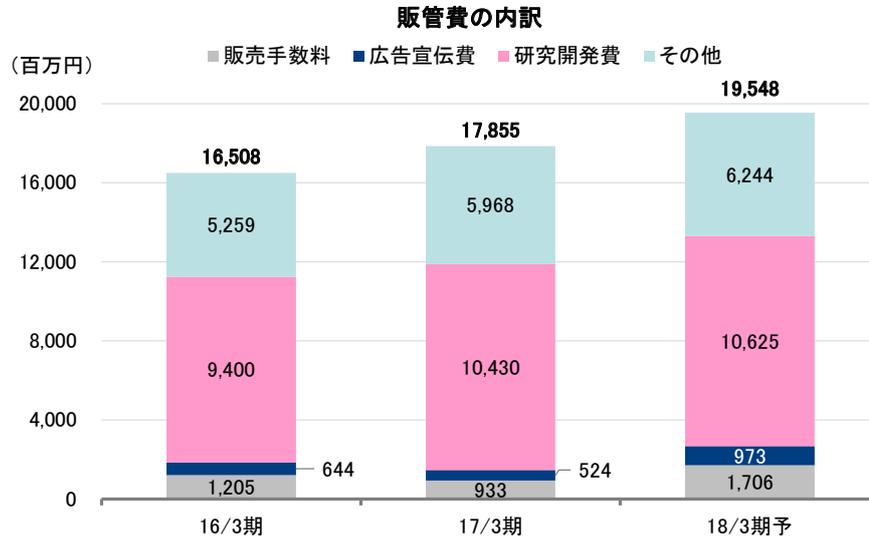
一方、パチスロ機については 2～3 機種の入力を予定しており、販売台数で前期比 21 倍増の 2.5 万台を計画している。こちらにもホラータイトルを中心に投入する。既に発売した「パチスロ 呪怨」(2017 年 5 月)については順調で目標に近い販売台数となっているもよう。また、「パチスロ リング 終焉ノ刻」を 6 月に投入する予定となっている。初代機では 2 万台を販売した実績があるが、射幸性を抑えた 5.5 号機での投入となるため、1 万台弱程度の販売を見込んでいる。あと 1 機種を投入するかどうかは今後の販売状況を見ながら決定する方針となっているが、既に開発・検定は終えている。5.5 号機のため、投入するとすれば販売期限となる 2017 年 9 月末までとなる。

売上高については販売台数の増加に伴い前期比 51.7% 増と大幅増収を見込んでいる。また、売上総利益率に関しては前期の 47.3% から今期は 44.2% へ低下すると見ている。これはパチンコ機、パチスロ機ともに機種交換時のコストが低くなる新筐体を採用することで、原材料費が一時的に上昇することが要因となっている。同社ではここ数年、利益体質の強化を目的に、パチンコ機において共通部材やリユース品の採用などを積極的に進めてきたが、今期はこうした取り組みをパチンコ機でも進めていく計画となっている。

パチンコ機の場合、本体枠を共通部材として機種入れ替え時においても利用することで、パネルの交換で済むようになり、ホール側にとっても低いコストで新機種の入れ替えを実現できるためニーズは強い。本体枠については従来、2～3 年でモデルチェンジを行っていたが、今回はこれを 5 年まで伸ばすために新しい本体枠を開発、「CR リング 終焉ノ刻」から新本体枠を採用して販売していく計画となっている。また、今回はサイドユニットについても機種ごとに交換できるようにしている。一方、パチスロ機についても「パチスロ リング 終焉ノ刻」から脱着式の新筐体を採用している。こうした取り組みによって今期は一時的に原材料費が増加し、売上総利益率の低下要因になる。ただ、一度、こうした機種がホールに導入されれば、次機種からはパネル交換のみで済むため、ホール側にとっても導入コストが軽減されるため、他社の機種にリプレースされる可能性は低くなる。同社にとってもリプレース機種については、パネルのみの販売となるため部材費のコストダウンに寄与することになる。こうした取り組みの効果により、2019 年 3 月期以降は売上総利益率も上昇に転じる見通しだ。

販管費については、前期比 9.5% 増の 19,548 百万円を見込んでいる。主な増加要因としては、販売手数料で前期比 773 百万円増、広告宣伝費で 449 百万円増、研究開発費で 195 百万円増となる。販売手数料については販売台数が増加することに加え、手数料率の高いパチスロ機が伸びることが大幅増要因となっている。また、広告宣伝費については「CR リング」発売 10 周年に関連したプロモーション費用だけでなく、後述するスマートフォン用ゲームアプリについても広告宣伝費を積極的に投下する計画となっている。

今後の見通し



出所：決算説明会資料よりフィスコ作成

2018年3月期は「変わる挑戦」をテーマに社内変革を推進する

2. 2018年3月期の取り組み施策について

同社は2期連続での大幅減収減益となったこともあり、今期は「変わる挑戦」をテーマに開発から製造、販売に至るまで、今までの常識や慣習にとらわれることなく、社内変革を推進していく方針を打ち出した。

新機種の開発においては、1) 高稼働要因の徹底的な分析を行い、更なる稼働力向上に向けたプラスアルファの付加価値要素を加えて、開発中の機種に対してもスピーディーに反映していくこと、2) 版權の持ち味を生かしたタイアップ戦略によるホラー系、萌え系、時代劇系等の開発強化、3) ユーザーの好奇心を満たす新しい演出法やアイデアの積極的な採用、4) 新ジャンルの確立・独自性の追求など、差別化された商品性の実現、などに取り組んでいく。また、2018年3月期からは社長直轄の経営企画本部主導で中期的な視点に立った開発戦略を立案していく方針で、1～2年後にはこうした効果が顕在化してくるものと予想される。

利益体質の強化に向けては、前述したように新筐体の採用など引き続き、部材の共通化やリユース品目の拡充を推進していくことによって、製造コストの低減を進めていくほか、営業活動においてもより効果的なプロモーション施策を打つことによって営業現場での生産性向上に取り組んでいく方針だ。例えば、新機種の発売前に効果的なプロモーション施策を打ち、顧客に対して新機種の情報を周知していくことで、商談時の交渉時間をスムーズに進めることが可能になると見ている。また、VR/AR（バーチャルリアリティ / 拡張現実）技術を使った内覧会を開催できるようになれば、今までのように実機を数十台運搬する作業が省けることになる。

藤商事 | 2017年6月14日(水)

6257 東証 JASDAQ

<https://www.fujimarukun.co.jp/corp/ir/>

今後の見通し

生産面では2017年10月よりパチスロ機専用の新工場を稼働させる予定となっている(減価償却費は年換算で170百万円程度)。新工場の稼働によって、生産能力は従来の日産定時500台から1,500台と3倍増に拡大することになる。自動化ラインを導入するため、生産に関わる人員を増員する必要はなく、生産量がアップすれば数量増効果による利益率上昇が見込まれる。パチスロ機については従来、年間2機種前後の投入にとどまっていたが、今回の新工場稼働によって投入機種数並びに販売台数を増やすことが可能となる。ただ、当面は販売計画を達成できる稼働力の高い機種を開発し、着実に実績を積み重ねていくことを優先していく方針だ。

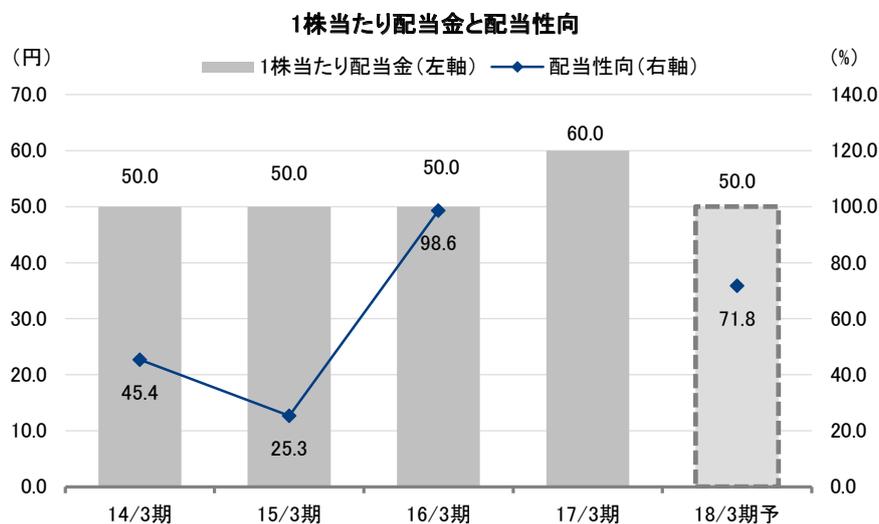
新規領域への挑戦としては、2017年3月期よりスマートフォン向けソーシャルゲームの市場に参入している。第1弾として2016年3月に美少女系の本格対戦RPG「マギアコネクト」、7月に麻雀バトルゲーム「アドヴェントガール」の配信を開始した。テストマーケティング的な要素が強かったため、いずれも短期間で配信を終了したが、2018年3月期は運営ノウハウも蓄積したことで、本格的な事業展開を進めていく予定となっている。開発費も従来より2~3倍かけ、オリジナルのRPGゲームを現在開発しており、下期以降のリリースを予定している。今回は販売プロモーションにも注力し、2017年9月に開催される東京ゲームショウに出展するほか、コミックも出版して認知度を上げていく戦略だ。開発は外部委託だが、企画・運営・販売を同社で行っていく。

また、パチンコ・パチスロ機とのシナジー効果を狙った実機シミュレーションアプリの開発も、過去に稼働実績を残した有力シリーズを中心に推進していく(開発・運営・販売はサン電子)。スマホゲームで体験した後に、パチンコホールで実際に楽しんでもらう流れを創り出せれば理想的と言える。パチンコ・パチスロ機メーカーでゲームコンテンツを開発しているのは、現状ではセガサミーホールディングス<6460>やフィールズ<2767>など一部に限られており、今後の差別化要因となる可能性がある。

株主還元策

業績及び配当性向を勘案し、継続配当を基本方針とする

同社は株主還元策として配当を実施している。継続した配当を基本方針としつつ、業績動向や配当性向などを総合的に勘案して配当を実施していく考えを示している。2018年3月期の1株当たり配当金は50.0円を予定している。2017年3月期は60.0円となっているが、このうち創立50周年の記念配当が10.0円含まれており、普通配当ベースでは前期と同水準となる。



注：2017年3月期は記念配当10.0円を含む
 出所：決算短信よりフィスコ作成

重要事項（ディスクレーマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ